

ペンテコステ・聖霊降臨日礼拝

2022年6月5日(日) 午前10時30分

午後2時

司式 牧師 姜 徑米

前 奏

招 詞 詩 編 51編12節

讃 詠 546

主の祈り

聖 書

エゼキエル書11章19～20節(旧1309)

ヨハネによる福音書16章4b～15節

(新200)

祈 禱

使徒信条

讃 美 歌 177(1)

説 教 「真理の霊が来る」

牧師 高橋和人

祈 禱

讃 美 歌 181(1)

聖 餐 式

献 金

頌 栄 541

祝 禱

黙 禱

6月の祈り

ペンテコステの恵みを覚えて、聖霊の励ましと慰めが与えられ、慰めの教会としての歩みを果たすことができるように。

コロナ禍によって困難を負っている人々と諸教会がを乗り越えられるように。

戦火が早く止み人々の生活が回復されるように。

弱い立場の人々や子どもたちが守られるように。

今日の祈り

慰め主なる聖霊の降臨によって、信仰生活がいたわりを受け、力づけられ、希望をもって忍耐の時を乗り越えることができるように。

それぞれの場所で礼拝を守る信仰の仲間が聖霊の励ましによって支えられるように。

「真理の霊が来る」 高橋和人

ヨハネによる福音書16:4b～15

ペンテコステを迎えた。教会の大切な祝祭である。それは聖霊に関わる喜びをわたしたちにもたらした。聖霊について、主イエスの言葉は明瞭である。心霊的なことといった曖昧なものはない。

何よりもそれは真理の霊だ。真理は神がイエス・キリストを遣わされたという(3:16)真理である。神の真理だ。それは、主イエスが一緒にいる時には問題にならない。しかし、弟子たちには別離が待っていた。主イエスは十字架の死を予告し、「わたしは去ってゆくが、またあなたがたのところに戻ってくる」(14:28、14:3)と告げられていた。

別離は心に悲しみを満たす。人の歩みは出会いと別離、結論は別離である。別離によって一生が形成されている。父のもとに行かれると理解しても悲しみは防げない。

しかし、主は別離が「弁護者」が贈られるためだという。聖霊は「弁護者」である。弁護者は言葉にならないうめきをもって執り成し、弁護する味方である。その方は主イエスが御父の御許に行くことによって遣わされる。

この方は罪と義と裁きによって、神の真理を実現される。罪は信じないこと、義は主が見えなくなること、つまり十字架と死と昇天による贖いのこと、裁きはこの世の支配者の断罪、それによって、神の支配を実現する。人は力によって人を支配する。神は御子の降臨により寄り添うことで支配する。神の支配こそ神の愛の実現である。

確かに、われらには理解できないことがたくさんある。しかし、真理の霊は悟らせる。それは肌身についての理解である。信仰生活はこの弁護者と共にある。

理解できないことと、悟ることが混在している。問いが沸き起こる。しかし、そこに主が触れることがある。真理の霊は主イエスのものを受け、主イエスは御父の持っているものを受けている。それらを区別する必要はない。三つの方が一つのお方として、触れてくださる、伴ってくださるのだ。

ペンテコステの聖霊降臨は教会の成立をもたらした。それは、真理の霊が生きて働いている時と場所をもたらした。教会は「その方がわたしのものを受けて、あなたがたに告げる」役割を果たしている。

教会が御言葉による礼拝を行うことは、告げることに仕えている。教会も世界の現実の中にある。しかしここにはその方が告げることが実現している。だからこそ、慰めがある。